

児童生徒・教職員科学作品展、 千葉県知事賞、優良賞を受賞 科学論文の部で

千葉県児童生徒・教職員科学作品展（千葉県・千葉県教育委員会などが主催）の表彰式が11月12日に行われました。この作品展は、明日の千葉県の科学技術を担う人材育成と科学技術教育の振興を図るもので、松尾小学校から山本直弘さんと和田優楓さんの2人が表彰されました。



左から和田優楓さん山本直弘さん

千葉県知事賞

「雨予報士アマガエル」

松尾小学校5年

山本 直弘さん

平成22年度千葉県児童生徒・教職員科学作品展、科学論文の部で松尾小学校5年生の山本直弘さんが「雨予報士アマガエル」という作品で千葉県知事賞を受賞しました。

山本さんは受賞にあたって「観察を毎日続けることが大変です。賞をいただき両親も喜んでいきます。これからは、カエルの鳴き声と気圧の関係を調べてみたい。」と述べ今後の観察にも意欲をみせています。山本さんの将来の夢は、薬剤師になることだそうです。

この作品は、3年生の5月から始めたもので実に3年間にわたるアマガエルの観察記録です。

雨予報士アマガエルは、毎日のアマガエルの朝6時の行動を調べ、その日の雨を予想することの積み重ねの記録でもあります。

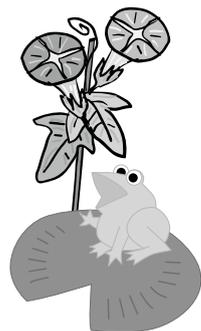
1年目はカエルの「鳴き声」が雨と関係があるのではないかと考え、鳴き方の違いと気圧の関係について調べました。鳴き方のデータをもとにした雨予報では、気象庁の予報よりも低い中率だったそうです。

2年目はカエルの「高さ」について調べました。観察をするためにカエルを家で約40匹飼っていたので、飼育箱の中にネットを張ってカエルを分けていました。そのネットに登るカエルの地面からの「高さ」と気圧の関係を調べました。その結果、「鳴き声」、カエルがネットに登る「高さ」の平均と「カエルが登る」最高の高さ」という3つの観察基準を組み合わせて、雨が降る時刻とその日の天気と80%の確率で当てることができたそうです。

3年目は2年目の観察の検証をすすめ、新たに湿度や気圧にも注目しました。

また、人工的に雨を降らせてカエルがどのように反応するかなど

も調べました。最終的にカエルは気圧によって天気を予報しているのではないかと結論を得たそうです。



優良賞

「あさがおはいつのびる？」

松尾小学校1年

和田 優楓さん

松尾小学校では、1年生の和田優楓さんも「あさがおはいつのびる？」で優良賞を受賞しました。

この作品は、夏に家でグリーンカーテンとして育てたあさがおを毎日調べ、つるの長さ、様子、気温に注目して何時にどのような条件で伸びるかについて調べた作品です。

3日間、1時間おきに観察し、表やグラフにまとめました。それをもとに、あさがおのつるが伸びやすい時間帯や気温についてまとめました。昼に伸びると思っていたあさがおが、実は夜に一番伸びていることがわかったそうです。